

平成30年度 水産試験場研究成果発表会 のご案内

平成30年度 宮崎県水産試験場研究成果発表会を次のとおり開催します。

本発表会は、水産試験場が取り組んでいる調査研究や技術開発の成果を報告・発表することにより、本県水産業の振興・発展に寄与することを目的としております。

多くの方々のご来場をお待ちしております。

1. 日時：平成31年1月21日（月）13：00～15：30

2. 場所：宮崎県水産会館5階 大研修室（宮崎市港2丁目6番地）

3. 発表内容

＝研究成果発表＝

- (1) 地場産の新鮮で美味しいワカメを食卓に
～宮崎県におけるワカメ養殖技術の開発～

増養殖部 技師 松本直人

（概要）厳しさを増している沿岸漁業経営の一助とするため、藻類養殖は比較的コストかつ低労力で収入が見込め、副業として取り組む価値があると考えられます。今回、起業につなげることを目的として漁業者の方々の協力のもとワカメ養殖試験を行ったので、その内容についてご紹介します。



- (2) マサバについて考える
～日向灘における主要浮魚調査～

資源部 技師 堀江ひかり

（概要）水産試験場では、日向灘に来遊する回遊性主要浮魚（いわし類、マアジ、さば類、ブリ）の資源状況を把握するために、国や他県と協力しながら調査を行っています。今回は、2017年と2018年に日向灘で漁獲されたさば類について、マサバを中心に、現在の資源状況や今後の漁況予測をご報告します。



(3) **サメ**の可食部は肉のみにあらず！
～サメ未利用部位の活用可能性調査～

経営流通部 技師 林 悠真

(概要) 県内で漁獲されるサメ類は近年魚肉の利用が進んでおり、学校給食にも登場しています。また、魚肉以外の軟骨部位には有益な機能性成分が多く含まれていることが知られています。県内で多く漁獲されるシュモクザメに着目して、加工業者とともにその利用法について調査を行っておりますので、その取り組みについてご紹介します。



(4) **ウナギ**の種苗生産に向けて
～成熟環境条件の究明～

増養殖部兼内水面支場 副部長 金丸 昌慎

(概要) ウナギの種苗生産の研究は古くから行われ、平成21年に国の研究機関が世界初の完全養殖に成功しました。大量生産には課題が残されていますが、水産試験場では平成25年から試験に着手し、平成28年に初めてふ化に成功し、平成29年には短日処理による早期成熟を再現するとともに、新たな方法による受精卵確保にも取り組みましたので、その内容をご紹介します。

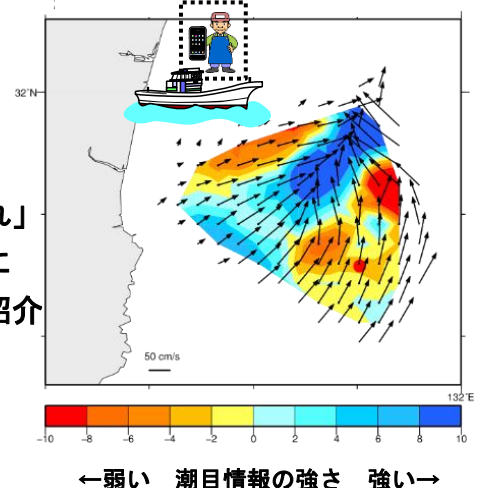


＝話題提供＝

(5) 高度漁海況情報サービスの**超高度化**への取組
～新たに開始する情報提供の紹介～

資源部 主任研究員 波慶次 力

(概要) 水産試験場では、操業の効率化を支援するため、漁場の形成や操業の成否を左右する海況情報を高度漁海況情報サービスとして提供していますが、本年4月からは、漁業者の皆様から要望の強かった「流れ」情報について「海洋レーダー」の運用により、新たに提供を開始することとしましたので、その内容をご紹介します。



4 その他

事前申込み不要、どなたでも参加できます。